

# 先代池 (せんだいいけ)

## 位置図



## 諸元

貯水量	326	千m <sup>3</sup>
満水面積	16.6	ha
受益面積	90	ha
堤高	6.3	m
堤長	928	m

先代池は丸亀市金倉町と新田町にまたがり、南側の渚部には丸亀市総合スポーツセンターが整備されています。築造年代は不明ですが、1700年代の史料に千田池として記録が残るとともに、その起源は四条川と呼ばれる古代の河道跡を利用して築造されたと推定されています。

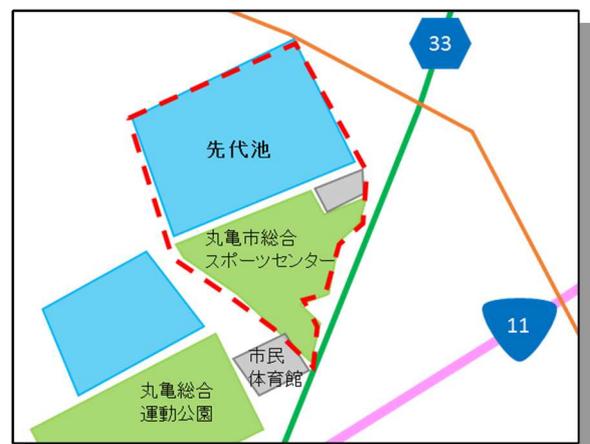
現在の貯水量（326 千 m<sup>3</sup>）となったのは明治初年(1868 年)のことと石碑に記されていますが、平野部に位置しており降雨だけでは灌漑用水を自給できないため、満濃池からの配水を受けて受益地域を潤しています。数ある満濃池の子池の中でも末端に位置する池であることから、水が十分に溜まらない年もあったようですが、昭和34年(1959年)の満濃池の嵩上工事の完成、昭和50年(1975年)の香川用水の通水開始により安定した水の確保ができるようになりました。

近年の主な改修歴をみますと、昭和45～46年(1970年～1971年)に団体営老朽ため池整備事業で堤防全体と樋管を整備するとともに、昭和47年(1972年)のスポーツセンターの建設整備に伴い、池の約3分の1が埋立てられるとともに貯水量減分は池内の<sup>しゅんせつ</sup>浚渫により確保され、現在の姿となっています。

平成9年(1997年)にはスポーツセンターに隣接して香川県立丸亀競技場が、平成27年(2015年)には先代池の西側に丸亀市民球場が完成するなど、時代の遷り変りとともに先代池とその周辺の環境も大きく変化し、市民などの競いの場・憩いの場として活用されています。



先代池北堤と丸亀競技場



昭和40年代前半の先代池水面